



(様式第9)

番号
平成20年9月30日

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人 聖マリア
理事長 明石

聖マリアンナ医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法第12条の3の規定に基づき、平成19年度の業務に関して報告します。
記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	81人
--------	-----

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照(様式第13)

7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	471人	3.7人	474.7人	看護業務補助	47人	診療エックス線技師	人
歯科医師	人	人	人	理学療法士	17人	臨床検査技師	91人
薬剤師	60人	人	60.0人	作業療法士	7人	衛生検査技師	人
保健師	51人	人	51.0人	視能訓練士	8人	検査その他	人
助産師	15人	1.6人	16.6人	義肢装具士	人	あん摩マッサージ指圧師	人
看護師	812人	26.2人	838.2人	臨床工学技士	19人	医療社会事業従事者	6人
准看護師	3人	人	3.0人	栄養士	2人	その他の技術員	28人
歯科衛生士	人	人	人	歯科技工士	人	事務職員	154人
管理栄養士	10人	人	10.0人	診療放射線技師	61人	その他の職員	2人

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	901.57人	人	901.57人
1日当たり平均外来患者数	2349.08人	人	2349.08人
1日当たり平均調剤数		1,430.3剤	

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

1 先進医療の届出受理の有無及び取扱い患者数

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	有・無	人
膝靭帯再建手術における画像支援ナビゲーション	有・無	人
凍結保存同種組織を用いた外科治療	有・無	人
胎児心超音波検査	有・無	人
インプラント義歯	有・無	人
顎顔面補綴	有・無	人
顎関節症の補綴学的治療	有・無	人
経皮的埋め込み電極を用いた機能的電子刺激療法	有・無	人
人工括約筋を用いた尿失禁の治療	有・無	人
光学印象採得による陶材歯冠修復法	有・無	人
経皮的レーザー椎間板減圧術	有・無	人
造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定	有・無	人
スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法	有・無	人
CTガイド下気管支鏡検査	有・無	人
先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	有・無	人
筋強直性又は筋緊張性ジストロフィーのDNA診断	有・無	人
SDI法による抗悪性腫瘍感受性試験	有・無	人
三次元形状解析による顔面の形態的診断	有・無	人
HDRA法又はCD-DST法による抗悪性腫瘍感受性試験	有・無	17人
子宮頸部前がん病変のHPV-DNA診断	有・無	人
腹腔鏡下肝部分切除術	有・無	人
悪性腫瘍に対する陽子線治療	有・無	人
エキシマレーザーによる治療的角膜切除術	有・無	人
成長障害のDNA診断	有・無	人
門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	有・無	人
乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術	有・無	人
声帯内自家側頭筋膜移植術	有・無	人
骨髄細胞移植による血管新生療法	有・無	人
ミトコンドリア病のDNA診断	有・無	人
鏡視下肩峰下腔徐圧術	有・無	人
神経変性疾患のDNA診断	有・無	人
難治性眼疾患に対する羊膜移植術	有・無	人
重粒子線治療	有・無	人
脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	有・無	人
31鱗-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	有・無	人
神経芽腫のRNA診断	有・無	人
硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	有・無	人
重症BCG副反応症例における遺伝子診断	有・無	人
骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体窒素凍結骨移植	有・無	人
脾腫瘍に対する腹腔鏡補助下脾切除術	有・無	人
低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断	有・無	人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
悪性脳腫瘍に対する抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	有・無	人
Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子診断	有・無	人
エキシマレーザー冠動脈形成術	有・無	人
活性化Tリンパ球移入療法	有・無	人
家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	有・無	人
膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術	有・無	人
三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療	有・無	人
泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	有・無	人
HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血幹細胞移植	有・無	人
頸椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによるCT透視下の経皮的椎間板減圧術	有・無	人
ケラチン病の遺伝子診断	有・無	人
隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	有・無	人
末梢血幹細胞による血管再生治療	有・無	人
末梢血単核球移植による血管再生治療	有・無	人
一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	有・無	人
カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	有・無	人
先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	有・無	人
超音波骨折治療法	(有)・無	4人
CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテーラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	有・無	人
非生体ドナーから採取された同種骨・韌帯組織の凍結保存	有・無	人
X線CT画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	有・無	人
定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	有・無	人
膀胱水圧拡張術	有・無	人
色素性乾皮症に係る遺伝子診断	有・無	人
先天性高インスリン血症に係る遺伝子診断	有・無	人
歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法	有・無	人
セメント固定人工股関節再置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術	有・無	人
腹腔鏡下直腸固定術	有・無	人
骨移動術による関節温存型再建	有・無	人
肝切除手術における画像支援ナビゲーション	有・無	人
樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法(腫瘍抗原を発現する消化管悪性腫瘍)	有・無	人
自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・無	人
自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・無	人
リアルタイムPCRを用いた迅速診断	有・無	人
内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	有・無	人
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	有・無	人
先天性難聴の遺伝子診断	有・無	人
フェニルケトン尿症の遺伝子診断	有・無	人
培養細胞による先天性代謝異常診断	有・無	人
腹腔鏡下子宫体がん根治手術	有・無	人
培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	有・無	人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術	(有)・無	121人
悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	(有)・無	0人
カフェイン併用化学療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
胎児尿路・羊水腔シャント術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
筋過緊張に対するmuscle afferent block(MAB)治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	(有)・無	0人
腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	(有)・無	0人
内視鏡下甲状腺がん手術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
副甲状腺内活性型ビタミンD(アナログ)直接注入療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人

(注)1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

2 先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

2 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾 患 名	取扱い患者数	疾 患 名	取扱い患者数
・ペーチェット病	284 人	・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	28 人
・多発性硬化症	133 人	・ウェゲナー肉芽腫症	49 人
・重症筋無力症	156 人	・特発性拡張型(うつ血型)心筋症	25 人
・全身性エリテマトーデス	1,990 人	・多系統萎縮症	21 人
・スモン	3 人	・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	1 人
・再生不良性貧血	265 人	・膿疱性乾癬	14 人
・サルコイドーシス	184 人	・広範脊柱管狭窄症	2 人
・筋萎縮性側索硬化症	37 人	・原発性胆汁性肝硬変	437 人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	560 人	・重症急性胰炎	27 人
・特発性血小板減少性紫斑病	134 人	・特発性大腿骨頭壊死症	62 人
・結節性動脈周囲炎	101 人	・混合性結合組織病	192 人
・潰瘍性大腸炎	322 人	・原発性免疫不全症候群	4 人
・大動脈炎症候群	39 人	・特発性間質性肺炎	25 人
・ビュルガー病	311 人	・網膜色素変性症	70 人
・天疱瘡	77 人	・プリオント病	1 人
・脊髄小脳変性症	136 人	・原発性肺高血圧症	27 人
・クローン病	73 人	・神経線維腫症	10 人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	8 人	・亜急性硬化性全脳炎	0 人
・悪性関節リウマチ	91 人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	1 人
・ペーキンソン病関連疾患	509 人	・特発性慢性肺血栓塞栓症(肺高血圧型)	10 人
・アミロイドーシス	180 人	・ライソゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む	1 人
・後縦靭帯骨化症	88 人	・副腎白質ジストロフィー	2 人
・ハンチントン病	2 人		

(注)「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

3 病院・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	病院CPC 年3回、手術材料肉眼検討会 週1回、婦人科勉強会 年10回、消化器カンファレンス 月1回、腎臓病カンファレンス 月2回、症例検討会 年10回、心エコー症例検討会 年10回、乳腺術前症例検討会 週1回、小児画像検討会 週1回	
剖 檢 の 状 況	剖検症例数 48 例	剖検率 8.0 %

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
別紙参照				
				補 委

計

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
別紙参照			

計

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託先
BRCA1 ユピキチンリガーゼによる乳癌抑制機構	太田 智彦	外科学(乳腺・内分泌外科)	3,200,000	補委 文部科学省
TNF- α による視神経障害の分子生物学的検討	北岡 康史	眼科学	1,700,000	補委 文部科学省
SSRIにより活性化されるAKT1によりリン酸化される転写因子の同定とクローニング	御園生 篤志	神経精神科学	1,700,000	補委 文部科学省
呼吸器疾患における病葉診連携に関する研究	駒瀬 裕子	内科学(呼吸器・感染症内科)	100,000	補委 (独)日本学術振興会
生活習慣病予防のための食事、運動指導の具体的効果の解明とその科学的根拠の確立	田中 逸	内科学(代謝・内分泌内科)	800,000	補委 (独)日本学術振興会
デジタル聴診器時間軸可変機能を組み込んだ心臓聴診教育プログラムの開発	信岡 祐彦	内科学(総合診療内科)	100,000	補委 (独)日本学術振興会
気道狭窄におけるハイブリットステント留置の呼吸生理学的研究	宮澤 輝臣	内科学(呼吸器・感染症内科)	1,200,000	補委 (独)日本学術振興会
メラノサイト及びメラノーマ細胞の分化におけるBMPとKITの役割と関係	川上 民裕	皮膚科学	1,000,000	補委 (独)日本学術振興会
抗うつ薬奏功蛋白質の新規ケミカルプロテオミクス法を用いた探索と蛋白質クローニング	長田 賢一	神経精神科学	1,700,000	補委 (独)日本学術振興会
2D-DIGEシステムを用いた新規乳癌関連遺伝子の同定と機能解析	福田 譲	外科学(乳腺・内分泌外科)	1,700,000	補委 (独)日本学術振興会
乳癌の抗癌剤感受性に影響を及ぼすDNA修復機構の解析	太田 智彦	外科学(乳腺・内分泌外科)	1,600,000	補委 (独)日本学術振興会
EDDによるAPC安定性制御機構における役割	大坪 毅人	外科学(消化器・一般外科)	1,600,000	補委 (独)日本学術振興会
傷害肝の外科的侵襲脆弱性に対する治療法の検討:プロテオミクスを用いたアプローチ	中野 浩	外科学(消化器・一般外科)	1,300,000	補委 (独)日本学術振興会
分子シャペロンHspをtargetとした卵巣癌分子標的治療開発への試み	木口 一成	産婦人科学	1,600,000	補委 (独)日本学術振興会
音像定位・体性感覚入力を利用しためまいりハビリテーション法の開発	肥塚 泉	耳鼻咽喉科学	500,000	補委 (独)日本学術振興会
羊胎仔尿路閉塞に対する膀胱-羊水腔シャント効果とその治療メカニズムの解明	北川 博昭	外科学(小児外科)	1,600,000	補委 (独)日本学術振興会
末梢血のリサイクルによる新たな肝不全治療法の確立	松本 伸行	内科学(消化器・肝臓内科)	2,100,000	補委 (独)日本学術振興会
間欠的虚血ストレスをターゲットとした腎疾患治療薬の開発-脂肪酸結合蛋白に注目して	木村 健二郎	内科学(腎臓・高血圧内科)	3,300,000	補委 (独)日本学術振興会
HMGBl蛋白質とその自己抗体の生理的ならびに病理的意義の基盤解析	尾崎 承一	内科学(リ・膠・ア内科)	1,900,000	補委 (独)日本学術振興会
siRNA及びアンチセンスオリゴヌクレオチドの視神經編性疾患への適応	上野 聰樹	眼科学	2,100,000	補委 (独)日本学術振興会
腹部外傷に対するCT所見を基本とした臓器損傷画像診断分類作成	中島 康雄	放射線医学	700,000	補委 (独)日本学術振興会
新規抗うつ薬結合蛋白質過剰発現マウスのストレス耐性とうつ病モデル動物の検討	朝倉 幹雄	神経精神科学	1,000,000	補委 (独)日本学術振興会
膵癌スクリーニングを目的とした糞便中メチル化診断	伊東 文生	内科学(消化器・肝臓内科)	3,300,000	補委 (独)日本学術振興会

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者名	所属部門
気管支学 2007 第29巻第3号 p199-203	Convex型超音波気管支鏡による縦隔肺門リンパ節の質的診断の有用性	栗本典昭	外科学(呼吸器外科)
胸部外科 2007 第60巻第8号 p724-733	末梢病変の診断	栗本典昭	外科学(呼吸器外科)
CHEST 2008 Vol.133 No.1 p137-142	Automatic Objective Diagnosis of Lymph Nodal Disease by B-Mode Images From Convex-Type Echobronchoscopy	Rie Tagaya	外科学(呼吸器外科)
Cancer Sci 2008 Vol.99 No.2 p287-295	Etiologic value of p53 mutation spectra and differences with histology in lung cancers	Takuo Shinmmyo	外科学(呼吸器外科)
日本臨床外科学会雑誌 2007 第68巻 5号 P1247-1252	術後早期に骨転移をきたした肝細胞癌の1例	小泉哲	外科学(消化器・一般外科)
手術 2007 5月号臨時増刊号 Vol.61No.6 2007 P707-711	下大静脈切除を伴った肝葉切除	大坪毅人	外科学(消化器・一般外科)
日本外科学会連合学会誌 2007 第32巻2号 P211-214	直腸癌に伴った孤立性化膿性肝膿瘍の1例	櫻井丈	外科学(消化器・一般外科)
手術 2007 第61巻 第5号 P603-608	無結紮、クリップレス腹腔鏡下右結腸切除術の手術手技	須田直史	外科学(消化器・一般外科)
日本外科学会連合学会誌 2007 第32巻2号 P180-183	腹腔鏡下結腸切除術後ドレーン挿入部ポート孔より腸管脱出をきたした1例	牧角良二	外科学(消化器・一般外科)
臨床雑誌 2007 外科8月号 Vol.69 No.08 P 956-960	胃癌術後の栄養指標は、術後手術部位感染(SSI)発生予測に有用である	櫻井丈	外科学(消化器・一般外科)
World Journal of Surgical Oncology 2007 P1-4	A rare case of concomitant huge exophytic gastroinestinal stromal tumor of the stomach and Kasabach-Merritt phenomenon	Taiji Watanabe	外科学(消化器・一般外科)
手術 9月号 P1349-1351 2007	高齢者に発生したFournier's gangreneの1例	野田顯義	外科学(消化器・一般外科)
臨床外科学 2007 9月号 P1287-1290	保存的治療後に緊急手術を施行した門脈ガス血症の1例	野田顯義	外科学(消化器・一般外科)
Hepato-Gastroenterology54 (2007) P1563-1566	Preservation of Segment 4 Inferior by Distal Middle Hepatic Vein Reconstruction Combined with Extended Right Hepatectomy after Portal Vein Embolization in a Patient with a Huge Initially Unresectable HCC	中野浩	外科学(消化器・一般外科)
Ann Surg in Press 2008 247 (1) P118-24	Sinusoidal Injury Increases Morbidity after Major Hepatectomy in Patients with Colorectal Liver Metastases Receiving Preoperative Chemotherapy	Nakano H	外科学(消化器・一般外科)
手術 2007 第61巻 第9号 P1341-1344	CTで術前診断した右傍十二指腸ヘルニアの1例	諏訪敏之	外科学(消化器・一般外科)
癌と化学療法 34巻 第9号 2007年09月 P1433-	進行肝細胞癌に対する小粒子リビオドールエマルジョンを用いたリザーバー動注化学療法の有用性	小林慎二郎	外科学(消化器・一般外科)
日本消化器病学会雑誌 2007 第104号 第11号 P29-P34	大型肝細胞癌に対するレシチンカリビオドールエマルジョンを用いた肝動脈塞栓術の有用性	小林慎二郎	外科学(消化器・一般外科)
日本臨床外科学会雑誌 2007 第68巻 12号 P139-143	内視鏡下の造影で穿通膿瘍を確認し、腹腔鏡下に手術した上行結腸憩室炎の1例	佐々木貴浩	外科学(消化器・一般外科)
Transplantation Proceedings 39(2007) P3002-3006	Protective Effects of MnM2Py4P and Mn-Salen Against Small Bowel Ischemia/Reperfusion Injury in Rats Using an In Vivo and an Ex Vivo Electron Paramagnetic Resonance Technique with a Spin Probe	T. Watanabe	外科学(消化器・一般外科)
Transplantation Proceedings 39(2007) P3007-3009	Real-Time Monitoring of Nitric Oxide (NO) and pO2 Levels Under Ischemic Conditions Associated With Small Bowel Ischemia/Reperfusion Injury Using Selective Electrodes for NO and Oxygen Molecules	T. Watanabe	外科学(消化器・一般外科)
Journal of Surgical Research 145,49-59(2008)	The Role of the New Ca2+ Antagonist,CV159,in Hepatic IR Injury—the Evaluation of Hepatic Organ Reducing Activity Using In Vivo and Ex Vivo EPR	Taiji Watanabe	外科学(消化器・一般外科)
Journal of Surgical Research 147,41-49(2008)	Effect CV159—Ca2+/Calmodulin Blockade on Redox Status Hepatic Ischemia—Reperfusion Injury in Mice Evaluated by a Newly Developed In Vivo EPR Im	Hiromichi p. Kobayashi	外科学(消化器・一般外科)
日本臨床外科学会雑誌 2007 第68巻 9号 P240-244	術前CTで診断した虫垂嵌頓臍径ヘルニア(Amyand's hernia)の1例	諏訪敏之	外科学(消化器・一般外科)
Eur Surg Res 2007; 2007 40;P247-255	Modification of the Hepatic Mitochondrial Proteome in Response to Ischemic Preconditioning following Ischemia-Reperfusion Injury of the Rat Liver	大島隆一	外科学(消化器・一般外科)
日本腹部救急医学会雑誌 Vol.27(7) P997-1000 2007	Churg-Strauss症候群に合併した空腸穿孔の1例	瀬上航平	外科学(消化器・一般外科)
日本外科学会感染症学会雑誌 2007 4(4) P561-564	胃癌術後の栄養パラメーターと手術部位感染発生頻度の相関	櫻井丈	外科学(消化器・一般外科)
肝胆脾 第55巻 第3号 P469-472 2007	腹腔鏡下胆囊摘出手術の胆管損傷の特徴	大坪毅人	外科学(消化器・一般外科)
医薬の門 2007 第47巻 第3号 P260-264	重症急性肺炎に対する持続動注療法—カテーテルの留置部位をめぐって	小森山広幸	外科学(消化器・一般外科)
日本臨床外科学会雑誌 2007 第68巻 10号 P135-138	S状結腸壁外に発生した骨外性骨肉腫の1手術例	芦川和広	外科学(消化器・一般外科)
日本臨床外科学会雑誌 第68巻 6号 P1337-1382 2007	進行・再発肝内胆管癌に対するリザーバー肝動注化学療法の検討	小林慎二郎	外科学(消化器・一般外科)
癌と化学療法 34巻 第10号 2007年10月 P1671-1674	化学療法と外科切除により29か月生存した脾癌術後異時性肝転移の1例	小林慎二郎	外科学(消化器・一般外科)
消化器科 第46号 2巻 P253-256 2008	食道表在癌の拾い上げ診断についての検討—当院で発見し、EMRを施行した食道表在癌11症例の検討—	小林慎二郎	外科学(消化器・一般外科)
日本臨床外科学会雑誌 第69巻 1号 P200-212 2008	会陰部に発生した血管周皮腫の1例	川嶋八也	外科学(消化器・一般外科)
冠疾患誌 2008 14:p14-16	緊急冠動脈バイパス術症例の検討	小林俊也	外科学(心臓血管外科)
日本心臓血管外科学会誌 2008 37巻2号p82-90	脊髄虚血におけるedaravoneの有効性の検討	千葉清	外科学(心臓血管外科)
腫瘍外科治療の最前線外科治療 2007 Vol.96 Suppl.p.378-381	浸潤性小葉癌	河原太	外科学(乳腺・内分泌外科)
Clinical Breast Cancer 2007 Vol.7, No.8, P.624-626	Use of Ultrasonography as an Alternative Modality for First-Line Examination in Detecting Breast Cancer in	T Ohta	外科学(乳腺・内分泌外科)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者名	所属部門
日本臨床65(増刊号6) 2007_P.281~284	乳癌－基礎・臨床研究のアップデート－ IV診断 4.バイオマーカー 1)バイオマーカー測定の現状と展望	川本久紀	外科学(乳腺・内分泌外科)
日本臨床 増刊号 乳癌 2007_P.281~284	バイオマーカー測定の現状と展望	川本久紀	外科学(乳腺・内分泌外科)
日本臨床 2007_65 Suppl.6.285~90	治療効果予測マーカー－最近のトピック、Basal-like 乳癌に焦点をあてて－	小池彩華	外科学(乳腺・内分泌外科)
日本臨床外科学会雑誌 2007 第68巻第8号P.28~32	乳腺非浸潤性アポクリン癌の1例	館花明彦	外科学(乳腺・内分泌外科)
臨床外科 2007 第62巻第11号(増刊号) P.117~126	乳癌の治療に関する最新のデータ	緒方晴樹	外科学(乳腺・内分泌外科)
Eur Surg Res. 2007 Dec 6;40(3):247~255	Modification of the Hepatic Mitochondrial Proteome in Response to Ischemic Preconditioning following Ischemia-Reperfusion Injury of the Rat Liver	Oshima R	外科学(乳腺・内分泌外科)
Cell Div. 2008 Jan 7;3:1	The ubiquitin E3 ligase activity of BRCA1 and its biological functions.	Wu W	外科学(乳腺・内分泌外科)
Cancer Sci. 2008 . Jan;99(1):62~70	Involvement of kinesin family member 2C/mitotic centromere-associated kinesin overexpression in mammary	Shimo A	外科学(乳腺・内分泌外科)
臨床眼科 2007_61(4)P561~654	カリジノゲナーゼ内服後の家兔眼窩内網膜中心動脈と短後毛様動脈の血流速度の変動	山田利津子	眼科学
眼科臨床医報 2007_101(9)P899~901	コンタクトレンズ装用に伴う綠膿菌による角膜潰瘍の1例	田中里歌	眼科学
BRAIN RESEARCH 2007 P306~315	Calcium/calmodulin-dependent protein kinase II regulates the phosphorylation of CREB in NMDA-induced retinal	H. Takeda	眼科学
Cornea 2007_26(10)P1220~1227	Experimental transplantation of corneal epithelium-like cells induced by Pax6 gene transfection of mouse embryonic	H. Ueno	眼科学
日本コンタクトレンズ学会誌 2007_49(2)P80~83	第43回日本眼科感染症学会合同シンポジウム:コンタクトレンズと角膜感染!感染対策としてのレンズケア!	針谷明美	眼科学
日本医師会雑誌 2007_136(9)P1733~1738	特集 加齢と視力障害総合内障診療	上野聰樹	眼科学
J Obstet Gynaecol Res 2007_33p.203~206	A rare case of pulmonary type of ovarian small cell carcinoma	Nao Suzuki	産婦人科学
Hum Cell 2007_20(4)p.107~110	Enzymatic activities of uridine and thymidine phosphorylase in normal and cancerous uterine cervical tissues	Yoichi Kobayashi	産婦人科学
Int J Gynecol Cancer 2007	Human monoclonal antibody for ovarian clear cell carcinoma-2, a human monoclonal antibody with antitumor activity against ovarian cancer cells that recognizes	N.Suzuki	産婦人科学
Endocrinology 2008_149(1)p.253~60	Human chorionic gonadotropin induces nestin expression in endothelial cells of the ovary via vascular endothelial growth factor signaling	Takahashi N	産婦人科学
耳鼻咽喉科・頭頸部外科 2007_79(5)P.91~97	良性発作性頭位めまい症	肥塚泉	耳鼻咽喉科学
ENTONI 2007_75(別)P.55~60	急性めまいと慢性めまい	肥塚泉	耳鼻咽喉科学
耳鼻咽喉科臨床 2007_100(5)P.375~378	舌転移をきたした腎細胞癌例	田中泰彦	耳鼻咽喉科学
耳鼻咽喉科展望 2007_50(3)P.182~185	歩行障害の客観的評価法の検討	高橋佳孝	耳鼻咽喉科学
Neuroscience Letters 2007_422P.81~86	Evaluation of the otolith function using sinusoidal off-vertical axis rotation in patients with benign paroxysmal	Akemi Sugita-Kitajima	耳鼻咽喉科学
Equilibrium Res 2007_66(4)P.139~144	MRIによる内耳形態の観察	肥塚泉	耳鼻咽喉科学
Equilibrium Res 2007_66(4)P.156~160	診断・治療に難渋した前半規管型良性発作性頭位めまい症の1例	犬飼賢也	耳鼻咽喉科学
耳鼻咽喉科臨床 2007_100(10)P.781~789	半規管-眼反射と耳石-眼反射の機能連関	肥塚泉	耳鼻咽喉科学
日本気管食道科学会会報 2007_58(6)P.527~532	当教室過去21年間の食道異物の臨床統計的観察	春日井滋	耳鼻咽喉科学
AURIS NASUS LARYNX 2008_35P.31~35	Head-tilting stabilometry in patients with benign paroxysmal positional vertigo	Kenya Inukai	耳鼻咽喉科学
Arthritis & Rheumatism. 2007_56(9):2875~2885	Development of an Ex Vivo Cellular Model of Rheumatoid Arthritis.	Nozaki T.	内科学(リウマチ・膠原病・アレルギー内科)
臨床リウマチ 2008 別冊 20(1):41~46	腸管囊腫様気腫、縦隔気腫を同時期に発症した多発性筋炎の一例。	中野弘雅	内科学(リウマチ・膠原病・アレルギー内科)
International Journal of Hematology 2008_87 p.260~265	Close relation between 14q32/IGH translocations and chromosome 13 abnormalities in multiple myeloma: a high incidence of 11q13/CCND1 and 16q23/MAF	Madoka Takimoto	内科学(血液・腫瘍内科)
QJM 2007_(100)P.335~343	Cardiac autonomic imbalance in patients with reversible ventricular dysfunction takotsubo cardiomyopathy	Yoshihiro Akashi	内科学(循環器内科)
細胞 2007_39(1)·P.2~3	消化器疾患とエピジェネティックス	伊東文生	内科学(消化器・肝臓内科)
Alcohol Clin Exp Res 2007_31·P.43~48	Evaluation of quantitative portal venous, hepatic arterial, and total hepatic tissue blood flow using xenon CT in alcoholic liver cirrhosis: comparison with liver cirrhosis C	Takahashi H	内科学(消化器・肝臓内科)
Hepatol Res 2007_37·P104~112	Xenon computed tomography shows hemodynamic change during the progression of chronic hepatitis C	Ikeda H	内科学(消化器・肝臓内科)
日本消化器病学会誌 2007_104·P.245~246	Serogroup2のC型慢性肝炎に対するconsensus interferon 12週投与の予備的検討	奥瀬千晃	内科学(消化器・肝臓内科)
J Gastroenterol 2007_13·P.964~969	Fatal liver failure caused by reactivation of lamivudine-resistant hepatitis B virus: A case report	Suzuki Y	内科学(消化器・肝臓内科)
治療 2007_89(4)·P.1646~1649	NAFLDのCT診断	鈴木通博	内科学(消化器・肝臓内科)
聖マリアンナ医科大学雑誌 2007_35·P.83~91	結腸直腸癌細胞株及び肝細胞癌細胞株におけるポロ様キナーゼ(P1k4)遺伝子のメチル化によるEpigenetic Alteration	馬場哲	内科学(消化器・肝臓内科)
Dig Dis Sci 2007_52·P.1121~1124	Remission of primary duodenal adenocarcinoma with liver metastases with S-1 chemotherapy	Katakura Y	内科学(消化器・肝臓内科)
Brit J Dermatol 2007_156·P.613~619	Expression of matrylsin (matrix metalloproteinase-7) in primary cutaneous and metastatic melanoma	Kawasaki K	内科学(消化器・肝臓内科)
内科臨床誌メディチーナ 2007_44·P.914~918	C型肝炎の合併症について	奥瀬千晃	内科学(消化器・肝臓内科)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者名	所属部門
消化器と免疫 2007 43・P.49-53	non-alcoholic steatohepatitisにおけるアディポカインの検討 B型慢性肝炎、C型慢性肝炎、アルコール性肝障害との比較	高橋秀明	内科学(消化器・肝臓内科)
肝臓 2007 48・P.341-342	Peginterferon α-2b・Ribavirin併用療法におけるHCV-RNA早期陰性化例に対する短期延長投与の有用性	池田裕喜	内科学(消化器・肝臓内科)
臨床と研究 2007 84・P.63-68	脂肪肝の治療	鈴木通博	内科学(消化器・肝臓内科)
聖マリアンナ医科大学雑誌 2007 35・P.101-107	ペグインターフェロン・リバビリン併用療法早期中止にもかかわらずウイルス学的著効が得られたC型慢性肝炎の1例	松永光太郎	内科学(消化器・肝臓内科)
Clin Cancer Res 2007 13・P.4786-4794	PRDM5 identified as a target of epigenetic silencing in colorectal and gastric cancer	Watanabe Y	内科学(消化器・肝臓内科)
聖マリアンナ医科大学雑誌 2007 35・P.83-91	Epigenetic alteration of Polo-like kinase 4 (Plk4) in methylation in colorectal cancer and hepatocellular	Baba S	内科学(消化器・肝臓内科)
内科臨床誌メディチーナ 2007 44・P.1700-1702	消化器疾患の薬物治療 炎症性腸疾患(IBD)	二階亮	内科学(消化器・肝臓内科)
肝臓 2007 48・P.371	新しい画像診断は肝疾患診断をどう変えるかXenon-CTを用いた肝脂肪化の定量および血流量測定によるNASHの扱い	鈴木通博	内科学(消化器・肝臓内科)
肝臓 2007 48・P.423	Serogroup 2, 低ウイルス量のC型慢性肝炎に対するConsensus Interferon 12週投与の検討	長瀬良彦	内科学(消化器・肝臓内科)
肝臓 2007 48・P.446-451	胃静脈瘤破裂により診断された原発性硬化症胆管炎による若年者肝硬変進展例	中澤緑	内科学(消化器・肝臓内科)
聖マリアンナ医科大学雑誌 2007 35・P.129-136	C型慢性肝炎に対するインターフェロン・リバビリン併用療法著効後2年を経過して発症した胆管細胞癌の1例	石井俊哉	内科学(消化器・肝臓内科)
J Gastroenterol 2007 42・P.857-865	Hepatitis C as a systemic disease: virus and host immunologic responses underline hepatic and extrahepatic	Okuse C	内科学(消化器・肝臓内科)
肝臓 2007 48・P.610-615	胆道出血に対し肝動脈塞栓術が有効であった肝細胞癌の1例	片倉芳樹	内科学(消化器・肝臓内科)
J Proteome Res 2007 6(9) P.3680～3690	In-Depth Proteome Profiling of the Normal Human Kidney Glomerulus Using Two-Dimensional Protein Prefractionation in Combination with Liquid Chromatography-Tandem Mass Spectrometry.	宮本雅仁	内科学(腎臓・高血圧内科)
Jpn. J. Clin. Physiol 2007 Vol.37 No.2 P115-119	Follow-Up Study of Elderly People Who Return for Health Checkups	Nobuyoshi NARITA	内科学(総合診療内科)
新しい医学教育の流れ 2007春 2007 P111-113	臨床実習終了時におけるAdvanced OSCEの試みと問題点	信岡祐彦	内科学(総合診療内科)
全国自治体病院協議会雑誌 2007 Vol.46 No.10 P10-15	新しい小児救急医療のあり方	亀谷学	内科学(総合診療内科)
Primary Care Japan 2007 Vol.5 No.1 P22-30	Follow-Up Study on the Elderly Health Checkups	Keito TORIKAI	内科学(総合診療内科)
家庭医療 2007 Vol.13 No.2 P60-65	総合病院で家庭医はやりがいを感じ事が出来るのか?	大橋博樹	内科学(総合診療内科)
日本臨床生理学会雑誌 2008 Vol.38 No.1 P55-60	Drug Compliance in Cardiology Outpatients	Sachihiko NOBUOKA	内科学(総合診療内科)
検査と技術 2008 Vol.36No.1P35	急性心膜炎	信岡祐彦	内科学(総合診療内科)
検査と技術 2008 Vol.36No.2P122	左房内球状遊離血栓	信岡祐彦	内科学(総合診療内科)
検査と技術 2008 Vol.36No.3P228	左質壁在血栓	信岡祐彦	内科学(総合診療内科)
診療と新薬 2007 44(6)p.31～32	金属研磨に伴う微細金属片の刺入により足病変をきたした2型糖尿病の1例	松井貴子	内科学(代謝・内分泌内科)
診療と新薬 2007 44(6)p.40～41	足潰瘍後に複合性局所疼痛症候群を発症したと考えられた2型糖尿病の1例	石井聰	内科学(代謝・内分泌内科)
日本内分泌学会雑誌 2007 83p.165～167	腫瘍内出血によるクリーゼに塞栓術が奏功した褐色細胞腫の1例	小尾竜正	内科学(代謝・内分泌内科)
ホルモンと臨床 2007 55(11)	悪性褐色細胞腫の治療:聖マリアンナ医科大学での経験	方波見卓行	内科学(代謝・内分泌内科)
内科 2008 101(1)p.5～11	糖尿病患者へのアプローチ	田中逸	内科学(代謝・内分泌内科)
Neuro-Oncology 2007 16 (2) P.81～85	多発する脳出血にて発症した multiple myeloma の1例	和久井大輔	脳神経外科学
日本救急医学会雑誌 2008 19(2)p.125～130	中大脳動脈瘤破裂による非外傷性急性硬膜下血腫の一例	榎原陽太郎	脳神経外科学
Mol Cell Biochem 2007 298 P.125～138	Gene expression profiles endothelial progenitor cells by oligonucleotide microarray analysis	Furuhasha S	泌尿器科学
Endocr J 2007 54(2)p.211～219	Effects of castration and testosterone administration on angiotensin II receptor mRNA expression and apoptosis-related proteins in rat urinary bladder	Nakazawa R	泌尿器科学
日本小児泌尿器科学会雑誌 2007 15(2)p.155～160	精巣微小石灰化症例の検討	力石辰也	泌尿器科学
J Androl 2007 28(6)p.858～865	Comparative analysis of interindividual variations in the seminal plasma proteome of fertile men with the identification of potential markers for azoospermia in	Yamakawa K	泌尿器科学
Reproductive Medicine and Biology 2007 6(4)p.185～193	Semen quality of Asian men	Iwamoto T	泌尿器科学
Transplantation Proceedings 2007 39(10)p.3457～3459	Anaphylactic reaction after Initial exposure of Basiliximab: Case reports	Sasaki H	泌尿器科学
International Journal of Dermatology British Journal of Dermatology 2007 (156)p.613-619	Clinicopathologic challenge, What is your diagnosis? Expression of matrilysin (matrix metalloproteinase-7) in primary cutaneous and metastatic melanoma	Tamihiro Kawakami K. Kawasaki	皮膚科学
Japanese Dermatological Association 2007	Isolated double herpes zoster paresis involving the left facial nerve and the right peroneal nerve following	Hideto TAKAHAMA	皮膚科学
Japanese Dermatological Association 2007	Tosufloxacin tosilate-induced thrombocytopenic purpura	Hideto TAKAHAMA	皮膚科学
Journal of Dermatological Science 2007 (48)p.53-60	Sphingosine 1-phosphate accelerates wound healing in diabetic mice	Kawanabe T	皮膚科学
British Journal of Dermatology 2007 157(5)p.1051-1053	Therapeutic effect of lipoprostaglandin E(1) on livedoid vasculitis associated with essential cryoglobulinaemia.	T.Kawakami	皮膚科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者名	所属部門
American Academy of Dermatology 2007 P840-848	Clinical and histopathologic features of 8 patients with microscopic polyangiitis including two with a slowly progressive clinical course.	Tamihiro Kawakami	皮膚科学
British Journal of Dermatology 2007 157(6)P1289-1291	Limited cutaneous systemic sclerosis associated with discoid lupus erythematosus in two Japanese patients with anticentromere antibodies.	T.Kawakami	皮膚科学
Arthritis & Rheumatism 2007 57(8)P1507-1513	High titer of anti-phosphatidylserine-prothrombin complex antibodies in patients with cutaneous polyarteritis nodosa.	TAMIHIRO KAWAKAMI	皮膚科学
Journal of Dermatological Science AJR 2007 188(6)P. 1568-1572	Proteomic analysis of immature murine melanocytes at different stages of maturation: A crucial role for calreticulin	Ayumi Kawase	皮膚科学
Clinical Breast Cancer 2007 7(9)P. 624-626	High-Resolution MRI in Detecting Subareolar Breast Abscess	Peifen Fu	放射線医学
Radiat Med 2007 25P. 1-7	Use of Ultrasonography as an Alternative Modality for First-Line Examination in Detecting Breast Cancer in Ductal Carcinoma in Situ: Correlations Between High-resolution Magnetic Resonance Imaging and Histopathology	Tomoyuki Ohta	放射線医学
Radiat Med 2008 26P. 70-75	Percutaneous Vertebroplasty Performed by the Isocenter Puncture Method	Yoshihide Kanemaki	放射線医学
ペインクリニック 2007 28(5)P679-682	星状神経節ブロックの末梢血流量に及ぼす影響-Perfusion indexによる検討-	Shinjiro Sakaino	放射線医学
Pharmacoeesthesiology 2007 19(1)P36-38	リドカインクリームによる接触皮膚炎の2例	西木戸修	麻酔学
Pharmacoeesthesiology 2007 19(1)P63-68	Antinociceptive interaction between dexmedetomidine and buprenorphine, eptazocine, ketamine, flurbiprofen axetil, and neurotropin in rodents	Maya Tanaka	麻酔学
Pharmacoeesthesiology 2007 19(1)P69-76	Antinociceptive and antihyperalgesic effects neurotropin in non-hyperalgesic and inflammatory-hyperalgesic rodents and its mechanisms of action	Kazuhide Uchida	麻酔学
麻酔と蘇生 2007 43(2)P29-31	脊髄も膜下麻酔中に生じた冠動脈挙縮	日野博文	麻酔学
J Anesth 2007 21(3) P361-366	Inhibitory effect of alprostadil against sevoflurane-induced myometrial relaxation in rats	Ohashi Y	麻酔学
麻酔 2007 56(10) P1198-1199	メイ・ヘグリン異常を合併した妊婦に対する帝王切開の麻酔管理	高林令奈	麻酔学
慢性疼痛 2007 26(1)P125-126	神経ブロックを中心とした治療により症状が軽快したCRPSの一例	西木戸修	麻酔学
救急・集中治療 2007 19(11・12)P1539-1543	熟傷患者に対する緊急手術の麻酔と注意点	館田武志	麻酔学
麻酔 2008 57(2)P171-173	プロシールTMラリンジアルマスク(PLMA)挿入時に発見された硬口蓋の外骨腫の1症例	金澤雅	麻酔学
麻酔 2008 57(2)P200-202	G6PD欠損症の症例経験	和田理菜	麻酔学
MB Orthop 2007 20(11): 43-52.	特集:足の疾患ー私の外来診療のコツー後天性足部障害:後脛骨筋腱機能不全.	仁木久照	整形外科学
膝 2007 31(2)P.283-285	CR型人工膝関節全置換術における術後成績	宮本哲	整形外科学
Japan Medicine 2007 1125P.8	骨粗鬆症リスク軽減へ母子指導を	清水弘之	整形外科学
日足外会誌 2007 28(2)	日本足の外科学会 2-5趾判定基準(JSSF lesser scale)	仁木久照	整形外科学
日足外会誌 2007 28(3)	日本足の外科学会 足部・足関節治療成績判定基準(日本語版)	仁木久照	整形外科学
日足外会誌 2007 28(4)	日本足の外科学会 足関節・後足部判定基準(JSSF ankle/hindfoot scale)	仁木久照	整形外科学
日足外会誌 2007 28(5)	日本足の外科学会 中足部判定基準(JSSF midfoot scale)	仁木久照	整形外科学
日足外会誌 2007 28(6)	日本足の外科学会 母趾判定基準(JSSF hallux scale)	仁木久照	整形外科学
日足外会誌 2007 28(2)P.6	日本足の外科学会 RA足部・足関節判定基準(JSSF RA foot ankle scale).	仁木久照	整形外科学
日足外会誌 2007 28(2)P.81-86	関節リウマチ前足部変形に対するLapidus変法および中足骨基底部斜め短縮骨切り術の併用による関節温存手術	仁木久照	整形外科学
日足外会誌 2007 28(2)P.96-101	アウトカム指標としてのJSSF Hallux Scaleの有用性と問題点-外反母趾患者に対するSF-36とVASによる主観的評価との	仁木久照	整形外科学
Hip joint 2007 33P.546-549	大腿骨転子部骨折の治療経験	増田敏光	整形外科学
Hip joint 2007 33P.326-328	MIS-THA前外側アプローチにおける上殿神経の解剖学的研究	石井庄次	整形外科学
Hip Joint 2007 33 P.531-534	骨接合術を行った大腿骨頭部骨折後の骨頭壞死発症例の検討	星野克之	整形外科学
Hip Joint 2007 33P.619-621	大腿骨転子部骨折の深部靜脈血栓症予防。一低分子ヘパリントと低容量ヘパリンの比較-	小宅雄一郎	整形外科学
日本小児外科学会雑誌 2007 43(4)P.615~619	Applied wound retractorを用いた腹壁破裂のsilo形成術	古田繁行	外科学(小児外科)
発達腎研究会誌 2007 15(1)	胎児尿路閉塞における膀胱-羊水腔シャントの腎に及ぼす効果	北川博昭	外科学(小児外科)
日本外科学会雑誌 2007 108(6)P.333~338	消化管穿孔	北川博昭	外科学(小児外科)
Journal of Pediatric Surgery 2007 42(12)P.2002~P.2006	Is a vesicoamniotic shunt intrinsically bad? Shunting a normal fetal bladder	H.kitagawa	外科学(小児外科)
			計 160 件

(様式第12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 三宅 良彦
管理担当者氏名	総務部長 薄井隆文、事務部長 相沢健男、薬剤部長 増原慶壯、臨床検査部長 信岡祐彦、画像センター長 栗原泰之、医療情報部長 中島康雄、看護部長 高橋恵、栄養部長 川島由起子

		保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		事務部管理課、薬剤部、医療情報部、看護部、臨床検査部、画像センター、メディカルサポートセンター	診療記録は平成17年8月から電子化を開始した。診療記録は1患者1カ行方式とし、入院は10年、外来は5年の保存期間を規定としている。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務部	
	高度の医療の提供の実績	事務部	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	事務部	
	高度の医療の研修の実績	事務部	
	閲覧実績	事務部	
	紹介患者に対する医療提供の実績	メディカルサポートセンター	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	薬剤部	
	確規保則の第9条の2及び第11条の各号に掲げる体制	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理対策室
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	
		医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善の方策の状況	

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録 規則第1条の1各号に掲げる体制確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染制御部	
	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部	
	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部	
	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善の方策の実施状況	感染制御部	
	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部	
	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
	医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	薬剤部	
	医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	クリニカルエンジニア部	
	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	クリニカルエンジニア部	
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	クリニカルエンジニア部	
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	クリニカルエンジニア部	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長 三宅 良彦
閲覧担当者氏名	事務部長 相沢 健男
閲覧の求めに応じる場所	事務部 管理課

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前 年 度 の 総 閲 覧 件 数	延	2 件
閲 覧 者 別	医 師	延 0 件
	歯 科 医 師	延 0 件
	国	延 1 件
	地 方 公 共 団 体	延 1 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹 介 率	58.0 %	算 定 期 間	平成19年 4月 1日～平成20年 3月31日
算 A : 紹 介 患 者 の 数			18,245 人
出 B : 他の病院又は診療所に紹介した患者の数			14,460 人
根 C : 救急用自動車によって搬入された患者の数			3,720 人
拠 D : 初 診 の 患 者 の 数			48,315 人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 9 条の 2 3 及び第 1 条の 1 1 各号に掲げる体制の確保状況

① 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (1 名) • 無
医療安全管理者 (看護師) 1 名	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (1 名) • 無
感染管理者 (医師) 1 名	
③ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 • 無

医療安全管理対策室

- ・ 所属職員：
専任 4 名 (看護師 2 名、事務員 2 名)
兼任 (医師 3 名、薬剤師 1 名、診療放射線技師 1 名)
- ・ 活動の主な内容：
 - (1) 事故防止に関する活動
 - * インシデント・アクシデントレポートの集計、分析、改善策の検討・策定・評価、管理
 - * 各部門のリスクマネージャーとの連絡調整
 - * 医療安全に関するマニュアルの作成と更新
 - * 各部門の安全活動状況の把握(巡視)と指導
 - (2) 事故調査に関する活動
 - * 事故発生時の調査、分析と改善策の検討・策定・評価
 - (3) 安全教育・啓蒙活動
 - * 安全管理に関する教育・研修の企画、運営
 - * 至急回報、ニュースの発行
 - * 安全管理に関する会議の運営

④ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有 • 無
--------------------------------------	-------

患者相談窓口

次のとおりの内容を外来周りと病棟に掲示し、入院時に配布する「入院のしおり」にも記入している。また、病院のホームページに掲載している。

- (1) 趣旨
- (2) 設置場所
- (3) 電話/FAX/Eメールアドレス
- (4) 担当者の所属、氏名及びその責任者
- (5) 対応時間

相談事案の受理、取り扱い、集計、管理者への報告等は「大学病院患者相談窓口運営規程」に基づいて行なっている。

⑤ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況

有 無

医療安全管理指針

平成12年4月1日作成
平成15年4月1日改定
平成16年3月1日改定
平成20年2月1日改定－（別紙）

・指針の主な内容：

- * 基本理念
- * 用語の定義
- * 委員会・組織
- * マニュアルの整備
- * 職員研修
- * 報告制度
- * 医療事故発生時の対応
- * 指針の閲覧
- * 指針の改定について明記。

⑥ 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況

医療安全対策委員会

年 13回

・人員構成：

事故防止担当副院長、医療安全管理対策室長、医療安全管理者を含む医師9名、看護師2名、薬剤師1名、管理栄養士1名、臨床検査技師1名、診療放射線技師1名、事務員1名で構成。

・活動の主な内容：

- (1) 医療安全に係る事項の審議
 - * 医療安全管理に係る基本方針
 - * リスクマネージャー会議・対策室からの提言内容に関すること
 - * 医療安全対策の立案・実施に関すること
 - * 医療安全推進に関すること
- (2) 事故発生時の対応
 - * 事故報告書（アクシデント・合併症）の確認
 - * 患者・家族に対する、マスコミ等に対する、病院としての対応策の検討
- (3) 医療安全管理対策室への改善策等の提言

リスクマネージャー会議

年 12回

・人員構成：

事故防止担当副院長、医療安全管理対策室長、医療安全管理者を含むリスクマネージャー（医師38名、看護師35名、技師等19名、事務員11名）

・活動の主な内容：

- * 当院のインシデント・アクシデント事例の共有
- * 事故防止の発生要因分析と対策の検討とその評価
- * マニュアル、事故防止対策の実施状況及び評価

⑦ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況			年 22 回
・ 研修の主な内容：			
19年度研修内容	開催日	テーマ名	参加者数
(1)第1回職員研修会 (講演会1回目)	5月14日	自動体外除細動器(AED)について (当院救命救急センター副センター長)	101名
(2)第1回職員研修会 (講演会2回目)	5月21日	"	73名
(3)第1回職員研修会 (ビデオ研修会)	6月1日	"	32名
(4)第1回職員研修会 (各部署リスクマネージャーからの伝達講習)	6月1日～ 7月2日	"	173名
(5)第2回職員研修会 (講演会)	10月19日	医療安全推進の取組みについて (米井昭智一倉敷中央病院麻酔科主任部長)	283名
(6)第2回職員研修会 (ビデオ研修会1回目)	10月29日	"	79名
(7)第2回職員研修会 (ビデオ研修会2回目)	10月31日	"	192名
(8)第2回職員研修会 (ビデオ研修会3回目)	11月8日	"	200名
(9)第2回職員研修会 (各部署リスクマネージャーからの伝達講習)	11月12日～ 12月13日	"	747名
(10)第3回職員研修会 (想定訓練)	1月23日	重大医療事故発生想定訓練(病院長、リスクマネージャー他)	383名
(11)第3回職員研修会 (ビデオ研修会1回目)	1月28日	"	127名
(12)第3回職員研修会 (ビデオ研修会2回目)	2月1日	"	130名
(13)第3回職員研修会 (ビデオ研修会3回目)	2月4日	"	115名
(14)第3回職員研修会 (各部署リスクマネージャーからの伝達講習)	2月12日～ 3月24日	"	1007名

(15) K Y T研修会 (上半期)	5月～9月 (合計12回)	フォトK Y T	300名
(16) K Y T研修会 (下半期)	10月～3月 (合計14回)	インシデントK Y T	292名
(17) 第1回 e-ラーニング研修(医師・看護師・薬剤師対象)	5月16日～6月18日	医薬品オーダーの書き方と理解	1024名
(18) 第2回 e-ラーニング研修(医師・看護師対象)	9月15日～10月15日	輸液施行中の管理	830名
(19) 第3回 e-ラーニング研修{医師・看護師・コメディカル(一部除く)対象}	1月12日～2月12日 (看護師は3月28日まで)	酸素流量計の取り扱いについて	1415名
(20) 中途入職者研修 {全職種対象(看護師除く)}	12月12日、 17日	◎医療安全管理の基本理念・指針について◎安全管理体制と取り組みについて◎重大事故発生時の対応について◎インシデント・アクシデント・合併症レポートシステムについて	12名
(21) e-ラーニング補講研修(平成18年度研修会参加シール6点未満者対象)	7月10日～8月10日	重大事故発生時の対応について	513名
(22) e-ラーニング補講研修(平成18年度研修会参加シール6点未満者対象)	12月1日～12月31日	"	99名
合計			8127名

⑧ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善の方策の状況

- 医療機関内における事故報告等の整備 (有)・(無)

* レポートの集計、分析、改善策の検討・策定・評価、管理
医療安全管理対策室がインシデント・アクシデントレポート、合併症発生報告書の集計、分析、改善策の検討・策定・評価、管理を行なう。当該部署で検討が必要と判断した事例は検討指示を出す。指示を受けた当該部署は、検討会終了後、結果報告書を提出する。検討結果報告書のうち病院全体での協議・周知が必要なものについてはリスクマネージャー会議で取り扱う。医療安全管理対策室で審議後、医療安全対策委員会に報告する。

(1) 「インシデント・アクシデントレポート」による報告

- ①患者に傷害が発生した事例、
- ②患者に傷害が発生する可能性があった事例、
- ③医療行為に関する、患者・家族からの苦情などを、

当事者・非当事者がリスクマネージャー経由で医療安全管理対策室に報告する。

(2) 「合併症発生報告書」による報告

合併症の発生時は、リスクマネージャー・所属部長経由で医療安全管理対策室に報告する。

- その他の改善の方策の主な内容：

* 回報を用いた職員周知と周知状況および理解状況の確認

至急回報の配布により、院内外のインシデント・アクシデント事例に関する防止情報等の職員周知を行なう。

理解状況の確認方法については、PCでeラーニング配信し、確認テスト合格で理解状況の確認を行なう。

医療安全管理指針

1. 基本理念

医療機関は、医療事故の発生・再発を防止することで患者の安全と医療の質の確保を図らなければならない。

本指針は、次のとおりの基本的な考え方に基づいて医療従事者の個人レベルの対策と、病院全体の組織的な対策を推進することによって事故を防止し、患者が安心して安全な医療を受けられる環境を整備することを目標とする。

- (1) 特定機能病院である本院は、安全管理上の問題点を有していることを認識する。①講座制による縦組織であり、横の関係が希薄②高度医療が求められ、患者も大きな期待を抱いて受診する③研修医、医学生の教育研修機関である。
- (2) 個人及び組織として、絶対に事故は起こさないという自覚・意識を持つ。
- (3) 「それでも人間はエラーをおかす」という前提に基づいて、個人及び組織的なチェック体制を整備する。
- (4) 医療を受ける側、患者・関係者に対するインフォームドコンセントの重要性を認識する。患者側との良好なコミュニケーションと信頼関係の保持に努めなければならない。
- (5) 事故等が発生した場合は、当事者や当該部署が個々の判断のみで行動するのではなく、病院として組織的に対応する。

2. 用語の定義

本指針で使用する主な用語の定義は、以下のとおりとする。

(1) インシデント

患者に被害を及ぼすことはなかったが、日常の医療現場で「ヒヤリ・ハット」した事例。事前に誤りが訂正された場合や、誤った行為を実施してしまったが結果的に被害が生じなかつた場合などを言う。教職員に被害が生じた場合も含む。

(2) 医療事故・アクシデント

医療の過程において患者に発生した望ましくない事象。医療提供側の過失の有無は問わず、不可抗力と思われる事象も含む。また、教職員に発生した場合も含む。

(3) 合併症

ある医療行為を行うことによって発生すると予測される、あるいは発生した好ましくない副次的結果。ある疾患に伴って起こった他の疾患、余病。予測された結果であった場合や、事前に説明がなされていた場合も含む。

(4) 教職員

本院の業務に従事する医師、看護師、薬剤師、検査技師、事務職員等あらゆる職種を含む。医療安全管理に関しては、業務委託先会社等に所属して本院の業務に従事している者も含む。

(5) 担当副院長

医療安全管理を担当する副院長。医療安全対策委員会委員長となる。

(6) 医療安全管理者

本院全体の医療安全管理を中心的に担当する。医師、薬剤師または看護師のうちのいずれかの有資格者。専任として医療安全管理対策室に所属し、医療安全対策委員会及びリスクマネージャー会議の構成員となる。

(7) リスクマネージャー

医療安全管理に係る所属部署の責任者として実務を担い、医療安全文化を醸成する。

3. 委員会、組織（「医療安全管理に係る組織図」参照）

(1) 医療安全対策委員会

安全管理の体制の確保及び推進のため、各部門の責任者等と医療安全管理者、感染制御部長、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者により構成し、主に安全管理に係る基本方針について審議し決定する。月1回の定例開催の他、必要に応じて臨時に開催する。この審議の経過及び結果等委員会の全容を病院長に報告する。

(2) リスクマネージャー会議

リスクマネージャーと医療安全対策委員会委員長、医療安全管理対策室長、医療安全管理者により構成し、安全管理に係る実務的活動を行う。月1回の定例開催の他、必要に応じて臨時に開催し、会議の全容を医療安全対策委員会委員長に報告する。

(3) 事故調査委員会

重大医療事故発生時等に、病院長が必要と認めたときに設置するもので、委員長及び委員は、その都度病院長が委嘱する。事実経過を調査し、これに基づいて原因究明を行うとともに改善策を検討し、これらの経過及び結果を病院長に報告する。

(4) 医療安全管理対策室

医療安全対策委員会で決定された方針に基づいて、組織横断的に安全管理の中枢を担う病院長直属の組織。医療安全管理者が所属する。

4. マニュアルの整備

- (1) 各部署に冊子として配備し、併せて院内ＬＡＮ、学内ＬＡＮに掲載する。
- (2) 本指針及びマニュアルを要約し、携帯版にまとめて教職員個々に配布する。
- (3) 改訂は、定期的点検時と必要が生じた時点に、医療安全管理対策室の管理のもとに行う。

5. 職員研修

- (1) 安全管理のための基本的考え方及び具体的方策を教職員に周知徹底する。これにより、個々の教職員の医療安全に対する意識、安全に業務を遂行するための知識・技能やチームの一員としての意識の向上等を図るために実施する。
- (2) 全体研修は、年2回以上開催する他、必要に応じて開催する。
- (3) この他、参加対象を関係部署に限定して不定期に開催する。

6. 報告制度

(1) インシデント・アクシデントレポート

当該部署のリスクマネージャーを経て医療安全管理対策室に提出する。
報告者は、その報告を理由とした不利益を受けることがないことを確認する。
また、報告書の取り扱いに際しては、患者側と医療提供側双方の当事者の守秘に配慮する。

(2) 合併症等報告書

合併症であると判断した場合は、当該部署の判断に留めることなく、病院としての見解を定めるために、当該部署のリスクマネージャーと所属長を経て医療安全管理対策室に提出する。

(3) 医薬品安全性情報報告書、医療機器安全性情報報告書

医薬品・医療用具等安全性情報報告制度に基づいて、厚生労働省医薬食品局
安全対策課に報告する。

7. 医療事故等発生時の対応（「重大医療事故発生時の対応」参照）

- (1) 緊急処置を最優先し、患者の救命、症状回復・維持に全力を尽す。
- (2) 必要に応じて関係医療従事者を招集して対処する、発生部署のみでは対処が不可能な場合は病院組織のすべてを挙げて支援する。
- (3) その後、速やかに所定の緊急速報を行う。
- (4) 同時に、患者・関係者に説明する。説明は、可能な限りの当該部署の上位者やリスクマネージャーを含む複数であるものとし、その内容を診療記録に記録する。
- (5) 病院長は、必要に応じて事故調査委員会を設置する。
- (6) 公表は、医療事故等公表基準に基づいて行う。

8. 患者からの相談への対応

- (1) 本院に患者相談窓口を設置する。
- (2) 患者相談窓口は、患者サービスの向上、医療の安全確保を目的に、患者等からの苦情や相談並びに関連情報を収集する業務を行う。

9. 指針の閲覧

患者等から本指針の閲覧の求めがあった場合には、これに応ずる。

10. 指針の改訂

本指針の改訂は、医療安全対策委員会において行う。

策定 平成12年 4月 1日

改正 平成15年 9月29日

改正 平成16年 3月 1日

改正 平成20年 2月 1日

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染のための指針の策定状況		(有・無)
<p>「医療関連感染対策指針」を作成し、院内マニュアルである「院内感染防止の手引き（第3版）」の冒頭に掲載している。指針の主な内容は以下の通りである。1. 基本理念、2. 感染管理に係る組織、委員会、3. 職員研修、教育の実施、4. 感染対策マニュアルの整備、5. 医療関連感染サーベイランスの実施、6. 適正抗菌薬療法の推進、7. 職業感染防止、8. 院内感染発生時の対応、9. 患者への情報提供と説明、10. 指針の改訂</p>		
② 院内感染対策のための委員会の開催状況		年 11回
<p>夏期休暇を除く毎月感染委員会が開催されている。委員長は微生物学教授で、委員は感染制御部、主たる診療科医師、看護部、臨床検査部、薬剤部、病理部、事務（施設、管理、人事など）の職員で構成されている活動の主な内容は以下の通りである。1. 院内感染サーベイランスを含む疫学に関するここと。2. 院内感染の発生の要因及び対応に関するここと。3. 減菌及び消毒に関するここと。4. 院内感染で注意すべき微生物及びその感染防止に関するここと。5. 原因微生物別感染防止対策に関するここと。6. 用途別、菌種別消毒薬に関するここと。7. 感染症法等で規定された感染症の届出に関するここと。8. 感染症報告書に関するここと。9. 労働災害上の感染措置、取扱いに関するここと。10. 院内感染防止のための検査に関するここと。11. 環境微生物検査に関するここと。12. 感染性廃棄物の適正処理に関するここと。13. 院内感染防止マニュアルの改訂に関するここと。14. 病院長からの諮問事項に関するここと。15. その他、感染防止に関するここと。</p>		
③ 従業書に対する院内感染対策のための職員研修の実施状況		年 約20回
<p>全職員対象の研修会を毎年2回定例で開催している。それ以外に、新入職員に対する講習、リンクナースを対象とした講習（コース）、初期臨床研修医を対象とした講習、院内清掃業者を対象とした講習などを合計すると年間20程度の講習会を開催している。研修の主な内容は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染の発生要因分析と改善策等の検討及びその評価 2. マニュアル、改善策等の実施状況及び効果の評価 3. 感染防止の推進に関する事項 <p>※平成19年度研修会（全職員対象）内容：2007年4月1日施行の改正感染症法について、多剤耐性 綠膿菌感染防止マニュアルについて、平成18年度針刺し切創の現状と課題について（以上感染 担当者意見交換会）、医療関連感染対策の潮流と最新のトピックス（感染症学術講演会）</p>		
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善の方策の状況		
<ul style="list-style-type: none"> • 病院における発生状況の報告等の整備 ((有・無)) <ul style="list-style-type: none"> 1. 「感染症発生報告書」に基づいて行政への報告を行い、毎月院内向けに集計・報告している。 2. 毎月診療科毎の臨床分離菌の検出状況、薬剤感受性を集計して報告している。 3. 診療科毎の抗菌薬使用状況を集計して報告している。 4. サーベイランスを実施（SSI・UTI・BSI・針刺し切創）し、院内講習等で報告している。 • その他の改善の方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 1. 抗MRSA薬の使用届出制度（電子カルテによる症例の確認） 2. 細菌検査室からの報告（日報・週報）に基づいて症例毎に助言を行う。 3. ICTによる病棟ラウンドの実施 4. 当院のマニュアルである「院内感染防止の手引き」の内容の追加・変更と職員への周知 5. 「感染制御部ニュース」（ニュースレター）の発行 		

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 1 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 処方せんの書き方 	
<p>③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無) ・ 業務の主な内容： <p>年3回、医薬品安全管理に関する定期巡回を実施 保管状況、期限等を確認するとともに、その回毎の重点項目を決めている。</p> 	
<p>④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ e ラーニングにて、注射薬の誤投与の防止 処方せん修正時の対応 薬品投与時の再確認の徹底 ・ インシデント発生時の業務改善 ・ レジメン登録されていない抗がん剤の使用を不可とした。 	

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	(有・無)
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 70 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容 : <ul style="list-style-type: none"> 新機種導入時の研修 (呼吸器、ポンプなど) 新入職者研修 (医療機器一般操作など) 病棟別研修 (必要に応じ) 特殊な装置の研修 (血液浄化装置、補助循環装置など) 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画の策定 (有・無) ・ 保守点検の主な内容 : <ul style="list-style-type: none"> 年 1 回定期点検 (電気的安全性、性能試験など) 装置別バッテリー交換 各種オーバーホール 大型保守契約機器の保守契約 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善の方策の主な内容 : <ul style="list-style-type: none"> 医療機器メーカーからの情報提供を収集し、安全委員会で検討 医薬品医療機器総合機構からの情報収集 	